

## 2 放課後児童クラブ

子どもたちの仲間づくりを応援します！

児童館は、子どもたちが誰でも自由に利用できる遊び場です。子ども自身が主役となる、いろいろな遊びを通して、健全な体の成長と豊かな心をはぐくむお手伝いをしています。その中の1つが「放課後児童クラブ」です。放課後、保護者や保護者に代わる方が、仕事などで家庭にいない小学生のためのクラブです。集団遊びや行事などに参加し、友達づくりをしながら児童の健全育成を図っています。

現在、市内の小学生約1600人が月曜日から金曜日までは授業終了後から午後6時まで、土曜日、臨時休業日、長期の学校休業期間中は午前8時30分から午後6時まで利用し、児童館職員と活動しています（児童1人当たりの利用料は月額2千円）。

寒さも一段と厳しくなった1月中旬、第二児童館を訪ねました。この日は約30人の子どもたちが、お父さん、お母さんが迎えに来るのを待っていました。

午後4時すぎ、静馬君（白二小1年）のお母さん、山田洋子さん（旭町）が迎えに来ました。「残業となるので午後5時30分までの勤務となるので、午後6時までお世話いただけるのは大変助かっています」と感謝の言葉。



▲山田洋子さんと静馬君



▲我妻瞳さんと愛香ちゃん

午後5時すぎには、愛香ちゃん（白二小2年生）のお母さん我妻瞳さん（旭町）がお迎えに。「午後5時までの仕事なのでとてもありがたいです。おかげで安心して仕事ができます」と愛香ちゃんの手を取って児童館を後にしました。

●第一児童館 佐藤真弓館長  
子どもたちにとって、児童館が「ほっとできる場所」となるように頑張っています。

また、夏休みなどの長い期間、1年生から6年生までの子どもたちが、一緒に遊んだり、勉強したりすることで、縦のつながりも出てきています。上級生が下級生の面倒を見ながら一緒に遊ぶことは、昔は当たり前のことでした。今では少なくなりましたが、大切にしていかなければならないと思います。

4月からは、新しい1年生たちも児童館に通うことになると思いますが、できるだけ早く慣れるように気を配っていきたいと思っています。

### ●第二児童館 三浦佳子館長

児童館は、1年生から6年生までの年齢の異なる子どもたちが、遊びを通して友達づくりを行い、喜怒哀楽を一緒に感じながら成長し、新たな自分を発見できる学校にはない空間だと思います。

最近では、地域の空き地などで遊んでいる子どもたちを見掛けることがなくなりました。子どもたちが自ら考え、工夫しながら遊んでいく様子を見守っていきたいと思っています。

これからも保護者や母親クラブの皆さんのご支援や地域の方々のお力をお借りしながら、子どもたちの元気な声が聞こえてくる児童館を目指します。

## 祝 誕生

### 1 誕生祝い金制度

地域を挙げて子育てを応援します！

平成17年4月から始まったこの制度は、第1子の誕生で1万円、第2子の誕生で2万円、第3子以降の誕生で3万円を贈呈しています。年々贈呈数が増加しており、平成19年度は平成20年1月までの10カ月分の集計となりますが、既に第3子以降の贈呈数が前年度を上回っています。



▲民生部子ども家庭課 平間宣夫課長

●誕生祝い金贈呈状況

区分	17年度	18年度	19年度
第1子	102	120	93
第2子	68	86	73
第3子以降	28	31	42
合計	198	237	208

※19年度は、1月末までの集計

これには、地域の宝である「赤ちゃん」の誕生を、市民全員で祝福して、健やかな成長と幸福を願い、お父さんとお母さん、そしてこの世に生を受けた赤ちゃんに対して、「地域を挙げて子育て支援していこう、しているんだ」という、市民の皆さんの熱いメッセージが込められています。4万人都市復活大作戦の大きな柱の1つが子育て支援です。誕生祝い金をはじめ、行政と市民の皆さんが一緒になって子育てをサポートする体制の充実も進めています」と力強く語り、「しろいし」で安心して赤ちゃんを産み、育てていただきたいとの願いを込めていました。

## 3 放課後子ども教室

子どもたちの体験活動を応援します！

平成17年度より2年間、文部科学省の地域子ども教室推進事業として採択され、斎川小学校児童を対象に「子どもの居場所づくり事業」が行われました。この事業の取り組み成果は、平成19年度より



▲1月25日、大平小学校の「放課後子ども教室」。活動ボランティアと一緒に鬼のお面を作る子どもたち

### 取材を終えて

平成19年4月から平成20年1月までの出生者数のうち、出生届の際に本市に住民登録した出生児の数は244人で、前の年の同じ時期に比べ6人増えています。

取材を通して、行政だけでなく市民の皆さんの力をたくさんいただいで、白石の子育て支援が支えられているんだと感じました。ふれあいプラザや公民館、児童館などで遊ぶ子どもたちを見てみると、この子どもたちが幸せに暮らせるまちをつくりたいかなければならないという気持ちを、より強く感じました。

そして、今、白石の子育て環境は、市民の皆さんのおかげで、子育て中のお母さんたちにとって充実してきていると思いました。

取材中、ボランティアの1人から、「子育て中の皆さんに合った子育て支援のメニューを選べるような環境づくりをさらに進めていくことで、子どもとお父さん、お母さんが一緒に楽しく生活できると思います」というご意見をいただきました。

今の子育て支援で満足することなく、これからも市民の皆さんの力をお借りしながら、より良い子育て環境を築いていかなければならないと思います。

市民みんなで、白石の大切な宝物である子どもたちを育てていきましょう。



▲活動ボランティアの高橋基さん

1月25日、大平小学校に大平地区の放課後子ども教室を訪ねました。1年生から3年生までの児童22人が参加しているこの教室には、地域の皆さんが活動ボランティアとして参加しています。開催は毎月2回で、主におもちやづくりを行い、そのおもちやを使ってみんなで遊んでいます。

この日は、節分を前にして「鬼の面作り」を行いました。午後2時、授業を終えた子どもたちが、体育館にある教室に集まってきました。市から委嘱された活動のアドバイスを行うコーディネーターを中心に、活動ボランティアの皆さんと子どもたちの鬼の面作りが始まりました。

活動ボランティアには、約30人の地域の皆さんが登録。その中には、老人クラブ「大平第三睦会」の皆さんも登録しています。会長の高橋基さん（大平中目）は、「10



▲活動ボランティアの半沢洋子さん

作成から30分後、子どもたちの鬼の面が出来上がり、体育館で校長先生も交えての豆まきが始まりました。鬼の面をかぶった子どもたちは、まかれた豆を競い合うように拾い、一足早い「豆まき」を地域の皆さんたちと楽しんでいました。